

ディスコグラフィー収録

ディスコグラフィー 【2023No.191】 (HP 収録)

分類：LP (45 回転重量盤)

作曲家：ウジェーヌ・イザイ

曲名：6つの無伴奏ヴァイオリン・ソナタ

演奏：ヒラリー・ハーン

発売：ドイツグラモフォン

No. : 4864177

概要：



発売元サイトの解説と収録曲は次のとおりです。

自身に縁のある作曲家の作品を録音した、グラミー賞受賞ヴァイオリニストの最新アルバム 《ヒラリー・ハーン～イザイ：6つの無伴奏ヴァイオリン・ソナタ》

●グラミー賞を3回受賞したアメリカのヴァイオリニスト、ヒラリー・ハーンが最新アルバムで取り上げたのはウジェーヌ・イザイ（1858-1931）の6つの無伴奏ヴァイオリン・ソナタです。ヒラリーはこの作曲家の最後の門下生に師事していたという縁があり、また2023年はこの曲の最初のスケッチ（1923年6月&7月）がされてから100年となる記念年でもあります。

●ウジェーヌ・イザイは後にも先にもいない名ヴァイオリニストの一人と国際的に見なされていますが、同様にそのような作曲家の一人でもあります。1880年代から1910年代までイザイの演奏者としての絶頂期にリサイタルで強い存在感があったのは、パッ

ハのソロと伴奏つきのヴァイオリン作品でした。そしてオーケストラとはバッハの協奏曲を演奏しました。イザイのためにエルンスト・ショーソンは『詩曲』を書き、セザール・フランクはヴァイオリン・ソナタを書いています。そしてクロード・ドビュッシーの独創的な四重奏曲ト短調を初演したのは、イザイが 1886 年に設立したイザイ弦楽四重奏団でした。彼は自身の演奏と録音を通して、偉大なベルギーのヴァイオリニスト、教師、作曲家のアンリ・ヴェータンとポーランドのヴィルトゥオーソ、ヘンリック・ヴィエニャフスキから学んだ芸術の系統を推し進めました。

●イザイの作品の中で最も野心的な作品の一つとされるこの 6 曲の無伴奏ソナタは 1923 年から 24 年に書かれ、それぞれが出身地の違う若い世代の演奏者に捧げられています。第 1 番はヨーゼフ・シグティ（ハンガリー）、第 2 番はジャック・ティボー（フランス）、第 3 番はジョルジュ・エネスク（ルーマニア）、第 4 番はフリッツ・クライスラー（オーストリア）、第 5 番はマチュー・クリックボーム（ベルギー）、第 6 番はマヌエル・キロガ（スペイン）。

●「ベルギーの国民的英雄、ウジェーヌ・イザイは最初の現代ヴァイオリニストとして広く認められています。その無伴奏ヴァイオリン・ソナタ集は象徴的で、時代を反映していて、この楽器を称える美しい作品です。作品が 2023 年の夏で 100 年目を迎えるのを機に、私は今年のクリスマス直前に 9 週間以上かけてそれを録音しました。これは本当に催眠作用のある音楽で、録音セッションの後、朦朧とした状態で冬の外気の中に出たところ、私の脳は骨を通して振動していた調性で再び調和を取り戻しました。もしそういうものがあるとしたらそれは音のお風呂です」—ヒラリー・ハーン

【収録】

ウジェーヌ・イザイ：6つの無伴奏ヴァイオリン・ソナタ Op.27

《LP 1》[Side A] 1-4) 第 1 番ト短調

[Side B] 1-4) 第 2 番イ短調

《LP 2》[Side A] 1) 第 3 番ニ短調『バラード』、2-4) 第 4 番ホ短調

[Side B] 1-2) 第 5 番ト長調、3) 第 6 番ホ長調

【演奏】ヒラリー・ハーン（ヴァイオリン）

【録音】2022 年 11 月 1 日–12 月 19 日、ボストン、The Fraser Performance Studio at GBH Music

今回、入手したのは 45 回転盤の重量盤仕様です。

イザイのこの曲は、演奏会でも聴いていますし、CD もアリーナ・イブラギモアの他、何枚かあります。

ヒラリー・ハーンの音源は、これまでモーツァルトやバッハの CD が多かったのですが、イザイは初めてですし、ましてアナログで聴くのは初めてです。

グラモフォンレーベルの最新録音ですので、RIAA、正相、第 4 時定数 High で聴いていきます。

ヒラリー・ハーンのアナログは、バッハのヴィオリン協奏曲がありますが、折り目正しいバッハの演奏のスタイルと違い、奔放で、まるで何かに取りつかれたような演奏です。この曲はアグレッシブなアタックから、消え入るような高音の澄んだ音、ピチカートなどと表情が千変万化するものですが、そのような表情の変化がリアルに再現されています。使用楽器はいつものヴィヨームだと思われませんが、モーツァルトを弾くときのような繊細で甘美な音色ではなく、あたかもガルネリのような妖艶な表現の音色です。上記の解説に、9週間以上かけて録音したとか、催眠作用のある音楽とかの記述がありますが、そういった意気込みとか、感情移入が伝わってきます。音質的には、ヴァイオリンの録音としては最上の部類で、擦弦音と胴鳴り、ピチカートと余韻、さらには収録環境の残響なども忠実に捉えられています。

以上